

家庭の省エネヒント集

～家庭でも実践しよう！ **WARMBIZ** ～

発行：環境省 北海道地方環境事務所 協力：えべつ地球温暖化対策地域協議会 2006年2月



家庭で気軽に実践！！

環境省では、この冬、温暖化対策を推進するため、室温 20℃で過ごすビジネススタイル「WARM BIZ (ウォームビズ)」を提唱しているところです。しかし、この取組はオフィスに限ったものではありません。とりわけ寒冷地である北海道の場合は、各家庭で暖房に頼らない生活を実践していただくことにより、二酸化炭素の排出量の削減が大いに期待できます。このため、北海道地方環境事務所では、家庭で実践できるウォームビズを道内に広げるため、関係機関と連携、協力を図りながら普及啓発を行っており、その活動の一環として、本年1月に地球温暖化防止講座「あったかエコライフ」を開催しました。

この「家庭の省エネヒント集」は、同講座で紹介された暖房に関する専門家の講演内容、家庭で気軽に実践できる省エネの取組例などを中心に紹介したものです。また、「保温調理」という“美味しい省エネ例”も掲載してあります。この冊子で紹介した省エネに関する工夫や取組を多くの方に実践していただき、本道から発信する“家庭で実践する温暖化対策”の一つとなれば幸いです。



地球温暖化防止講座「あったかエコライフ」開催

前述した地球温暖化防止講座「あったかエコライフ」では、北海道立北方建築総合研究所の月館司さん（居住科学部人間科学科長）に、暖房や融雪の基礎知識と、ヒートポンプなど、最新の設備について講演していただきました。主な内容をご紹介します。

- 室温を1℃下げると、10%くらい灯油の使用量がさがるというデータがある。
- 北側の部屋の補助暖房として、ポータブルの灯油ストーブ（開放型）を置くのは避けるべきです。結露・カビの原因となり、また、排気に含まれる窒素酸化物は喘息の原因となることが知られています。FFストーブか電気ストーブにしてください。
- 汚染物質の発生量の抑制や2時間に1回程度の空気の入れ換えという必要換気量の考えから、換気は重要です。省エネの観点から言うと、熱交換型のものが良い。熱交換型の換気扇でも、フィルターの掃除が不十分で、必要な換気がなされなかったり、結露の原因になっている例もあります。
- ロードヒーティングの省エネポイント
 1. 余熱運転が不要な容量の機器を選択する。（灯油は、余熱運転不要）
 2. 少降雪時の適切な運転制御。（運転時間の無駄をなくす）
 3. 路面状態に応じた運転機能がある。（または、こまめにスイッチを切る。）
 4. 遅延タイマーや適切な制御温度の設定。
 5. 熱拡散率の良い舗装材の仕様、断熱材の利用。
- 建物から逃げる熱量が半分になると、省エネ効果は、2倍以上になります。熱が逃げるのが最も多い部分は、窓とドアなので、これらの省エネが重要になってきます。